

# 「柏崎の橋」

## 3 1 青海川橋

青海川橋は青海川駅を出て、県道田屋・青海川停車場線を柏崎さけのふるさと公園に向かう、谷根川に架かる橋である。

橋名は「おおみがわばし」だが、地名は「おうみがわ」であり「群書類従」第18輯に収められた文明18年（1486）の紀行文「廻国雑記」に地名「あふみ（現代の読みで、おうみ）川」と見える。

昭和47年3月に竣工した橋は鉄筋コンクリート造で長さ20m、幅6m、総工費約1,500万円。それまで架かっていた木橋の老朽化により、約30m下流に架け替えられたものである。

地元の方によると、木橋であった頃は水上がりした時に流木などが橋にひっかかり、川がせき止められて付近が水浸しになったので、新しい橋は土台を高くし、流れてきたものが橋にひっかかりにくいようにしたという。



青海川駅が最寄り駅である柏崎国民休養地は、都会で生活する人たちが自然と触れ合うことを目的に昭和48年10月着工され、昭和50年7月にオープン。県内でも有数の景勝地にあるキャンプ場で、県内外からキャンプや周辺観光を楽しむ人たちが訪れる。青海川橋と青海川駅跨線橋は、鉄道を利用して国民休養地を訪れる際の表玄関となるものであり、昭和47年4月15日の渡り初め式は、青海川駅の跨線橋・青海川橋・赤岩橋の青海川地区三橋合同で行われた。

「日本一海に近い駅」と言われ、潮の香り漂う青海川駅を降り、柏崎国民休養地へ向かう人たちにとって、頭上の赤い米山大橋と緑の山々、そして青海川橋を望む風景は、印象に残るものだろう。

### ●参考にした本

日本大百科全書（R031 二木）小学館 発行

角川日本地名大辞典 15（290 カト）

「角川日本地名大辞典」編纂委員会 編

柏崎市史資料集 近現代篇 3（224 Kシハ）

柏崎市史編さん委員会 編

柏崎日報 昭和47年4月 柏崎日报社